

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500187		
法人名	(株)Kitahamanokaze		
事業所名	グループホームタなぎ		
所在地	秋田県由利本荘市岩城内道川字水呑場28-30		
自己評価作成日	令和2年10月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①食事は季節の食材を取り入れたり、利用者の要望を取り入れたりして献立作成をし、満足できるような食事レベル向上に努めていく。②明るく笑顔が絶えない施設環境づくり。③管理者が看護師である。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新型コロナウイルス感染防止の為、利用者の行動制限が続けられている状況下で、毎朝代表(施設長)も一緒にミーティングでは、利用者の情報や職員の意見交換が活発に行われています。職員はいつもポケットにメモ帳を入れており、どんな気付きも記録に残し、情報を共有しながら支えています。事業所内の消毒や行き先などを検討し、訪問の理髪の受け入れや、外出も楽しめるように実施されています。また 家族への定期送付書類には利用者個々の顔写真を載せて、状況報告するなど工夫された取り組みが行われています。独居生活者が徐々に増えている地域の現状に於いて、代表はグループホームの増設に向けて計画を進めています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①人々の心に触れ人々の役に立ち②創意工夫にて地域に潤いを発生させ③共に成長し分かち合う④お互いの自由を尊重し合う⑤それが楽しい人生の形となる	毎朝のミーティング時、理念を全員で唱和して共有し、確認しながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の避難訓練やクリーンアップに参加したり、近所のお年寄りが施設に立ち寄り、地域の交流を図っている	散歩時の挨拶・近くの診療所に受診時や山菜の差し入れ また近所の知人がみえることもあり、交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	受診時地域の人と会話したり、散歩している時など地域の方とふれあいながら認知症の理解を深めている		
4	(3)	i 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年3月からコロナ感染予防の為、運営推進会議は委員の方に書面での報告のみだったため、意見交換が出来なかった	コロナ禍の中での会議は開催できず、事業所の取り組み状況を書面で報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域のケア会議に参加し、地域での情報を得たり、事例発表での地域の支援内容などが理解出来たり、意見交換で協力関係を築いている。	生活保護担当部署と連携を図りながら、必要に応じて書類の申請時に、相談に対応していただくなど協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新しい職員が入社すると身体拘束の具体的な行為を正しく理解するよう内部研修を行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる	定期的に研修会を実施し、拘束についての理解を深め、身体拘束をしない支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為はなかったが、虐待に繋がるような行為を発見した時は状況確認し、虐待の研修や話し合いを行ない、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症で現状が理解出来ない利用者やコミュニケーションが取れない利用者については家族や市の保護課の連絡をとり、個々の必要性を話し合い権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は必ず家族や本人に契約書、重要説明事項、重度化した指針の説明を行ない、不明点や理解出来ないことなどは解りやすく説明し、後日電話でも対応を行ない理解、納得できるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会や支払いの際に要望を聞いたり、ホームページで施設での行事や情報を公開し、また、毎月利用者の状況を書面で報告している。	コロナ禍の中で面会者は少ないが、定期送付書類などを通し、意見や要望などがあれば運営に反映させていくよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に代表者か管理者が必ず参加し、会社の方向性について話し合いを持ち、職員からの意見や提案などを聞いている。	職員からは意見や要望が多くあり、備品の購入などにつながった事例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や主任と連携をとりながら処遇改善を図ったり、職員に各担当を決めやりがいを持たせ、また、パート職員にも処遇改善手当を支給するなど各自向上心を持てるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育については、今年は外部研修が出来ず、内部研修をおこなっている。また、職員の力量を把握しながら、ベテラン職員は新人職員のトレーニング行ない介護技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年に入ってからコロナ感染対策の為、他施設への見学はできていないが、必要時は同業者に電話やメールをしたり、グループホーム連絡会に参加し交流することで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にケアマネジャーと連携を図り、本人や家族に見学してもらい、要望や不安や困っている事があればその都度対応し安心して入居してもらうよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、本人や家族が困っていることや不安に思っている事を察知し声掛けや相談相手となり、少しでも不安なく安心できるように努めまた、要望に耳を傾けていく		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の担当スタッフを決め、関りをもつよう努め、利用者と共に山菜の処理や調理の手伝い、洗濯物を畳んで貰ったりしている。また、近くの公園や道の駅に出掛けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者との会話の中から情報を得たり、家族から情報を得て、必要時は電話や家族宅を訪問して家族との絆を大切にしながら本人を支える関係を築いている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染み方から電話があったりすると取り次いだり、どうしても会いたいと話す時には家族に連絡し出来るだけ会えるよう支援している。行きたい場所があれば連れて行くよう心掛けている。	馴染みの床屋さんが定期的に来てくれたり、新型コロナ感染予防の為に、直接接することは困難ですが距離を置いての面会を実施するなど、関係を継続できるように取り組んでいます。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、独りが好きな人や仲良しの関係を把握しながらスタッフが中に入り話しやすい雰囲気を作り、支え合えるような支援に努めていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要な時は家族と連絡をとったり、入院した時は経過を把握する為病院に出掛け、家族と連絡をとり支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の暮らし方の希望があればなるべく要望に応えるよう、本人や家族と話し合っている。絨毯を敷いて欲しいと希望時は消防法で防災絨毯をお願いしたりしている。	少数の把握困難な利用者については、日々の関わりの中で関心をはらいながら把握に努めています。情報は連絡ノートで共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャーよりフェイスシートFaxしてもらったり、家族からの情報を得て、その人の生活環境や生きがいに繋がることを把握できるよう努めている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当スタッフの気付きを職員間で共有し、個々の心身の状態の異常時はカンファレンスを行ない対応している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフが悩んでいる事や申し送りで課題が見つかった時は、カンファレンスを行ない連絡ノートでスタッフ内で情報を共有している。また、ケアマネジャーも連絡ノートから情報を得て介護計画作成している	介護計画作成担当者は申し送り時や、経過記録、などで状態を確認し、本人本位の介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録にその日の様子やケア内容、気づきなどを記載し、連絡ノートや申し送りでスタッフ内で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春には花見に出掛け、秋にはぶどう狩りに出掛けたり楽しんでいる。施設からみえる海や夕陽の景色を鑑賞している		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の定期受診は協力医の受診の他にも総合病院や専門病院の受診の介助をしており、体調不良時は主治医に相談したり、救急外来受診している。かかりつけ薬局から薬の説明や薬の一包化してもらったり連携を図っている。	受診付き添いに家族の協力もあります。受診情報は連絡ノートやお薬ノートで共有しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が利用者の体調不良やバイタル異常があった場合は看護師に相談し指示を仰ぎ、必要時は受診している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時は、病院関係者と情報交換をしている、必要時は電話や病院に行き担当看護師から病状を確認している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期について本人や家族に説明しており、当施設での対応困難になった時は主治医や家族、ケアマネジャーと連携を図っている。	事業所の「終末期・重度化時の対応に係る指針」を基本に、全職員が統一した考えで取り組んでいます。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の内部研修を行い、応急処置や対応について確認している。夜間の急変時は近くの職員が駆け付ける体制を整えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ない、火災だけでなく地震や水害についても利用者の避難できる方法を話し合っている。また、町内の人にも協力をお願いしている。	日中、調理場から火災発生を想定し、指定の避難場所近くまで避難する訓練を実施しています。全職員が発電機の操作が出来るように練習しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、利用者からきつい言葉を言われても、その人の誇りやプライバシーを損ねないような対応をしている。	一人ひとり(職歴などを考慮)に合った声掛けやトイレ誘導・入浴介助時には羞恥心等人格を損ねない支援を実施しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の希望や自己決定出来ない利用者には家族やケアマネジャーから情報を得たり、職員が情報を共有し、本人が自己決定しやすいよう働きかけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状態や気分で、食事やおやつを居室で食べたいとか、レクレーションも参加したくない時は無理に参加させず、希望に沿って支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理髪店に訪問してもらい散髪している。また、身だしなみも自力で出来る利用者でも家族に季節ごとに衣類の交換をして貰ったり、買い物に出掛けたいと希望があれば一緒に出掛けている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	雑談しながら、利用者の好物を聞きメニューに入れたり、春の山菜の処理をして貰ったり、秋には柿の渋抜きを手伝ってもらい、調理後は利用者と職員と一緒に食事している。	一人ひとりの摂取状態に適した調理内容、ホットプレートを囲んでのおやつづくり、誕生会では本人の希望を取り入れたメニューにしたり、可能な限り外食も出来るよう支援しています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量の把握の為、毎日食事やおやつの飲み物チェックをしている。食べれない物があれば別メニューにしたり、むせやすい人には刻みやペースト状にしたり、水分はトロミを使用している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自力で出来なかったり、入れ歯も洗浄できない人は介助している。また、自力で出来るが忘れやすい人には誘導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツを使用している利用者が多いが、なるべく尿取りパットを併用し、パットを交換している。また、食前にトイレの声掛けをし排泄が自立できるよう支援している。	特に失禁の多い利用者については、専門医に相談したり、排泄チェック表を活用しながら、トイレ誘導するなど、出来るだけトイレでの排泄を出来るよう取り組んでいます。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認をし、排便が無い時は水分摂取を促したり、腹部マッサージを指導している。また、食事にヨーグルトや寒天などをつけている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自力で入浴できる利用者は希望をに応じて入浴している。介助が必要な利用者は複数の職員がいる日勤帯に入浴しており、なるべく間隔が長くないよう支援している。	左右に移動できる浴槽が取り付けられています。車いす利用者も週2回位に入浴出来るよう支援されています。また 炭酸泉の設備もされており暖まると喜ばれています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせ居室で休息できる環境を整えたり、夜間も巡回し良眠できているか、眠れない時は声掛けし支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の効能や副作用などは看護師から介護職員に説明し、また、薬の変更時は注意する事項など連絡ノートで情報を共有している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で洗濯たたみや新聞たたみなどを手伝って貰ったり、誕生会やドライブ、バーベキューなどを開催し、みんなで美味しく食べたり、風船バレーをして気分転換の支援をしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ感染予防で出掛ける事が少なかったが、ドライブや花見、近所を散歩するなど戸外に出かけられるよう支援している	買い物希望者には職員と一緒に個別に外出出来るよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭管理は基本的には施設で管理しているが、希望によって少量のお金の所持や支払いなども自分で行うよう支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話の希望があった時は管理者と担当職員で相談した上で電話している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体空調管理を行い過ごしやすい環境に努めたり、ホールは一定の温度を保つよう心掛け、各居室に於いても希望をとりいれ温度、湿度の調節している。食後は洗面所、トイレを清掃したり、時期にあった置き物をおいて居心地よく過ごせるよう心掛けている	事業所内は木目模様の床や壁が多く温もりが感じられます。また 掃除が行き届いており気持ち良い共用空間となっています。居室・ホール・廊下は床暖房が設置されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、テレビを観たり利用者同士が談話できる空間作りをしている。また、独りになりたい時や休みたい時は居室で過ごしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は家族の写真や遺影などを、おのこの自由にもち込み個性に合わせた居室作りを家族と相談しながら工夫をしている。	仏壇を持ち込んで毎日お水をあげて先祖を祀っておられる利用者もいます。ベッドの位置は本人の希望や状態に合わせた配置となっており、一人ひとりが居心地良く過ごせる居室となっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりを設置したり、居室のベッドにベッド柵を取り付け、なるべく自立した生活が送れるように工夫しており、毎日の生活で洗濯たたみや調理の補助でわかる知識を出せるよう工夫している		